

営農技術情報

—畑作(大豆⑦)—

令和元年 9月26日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

JA道北なよろ営農センターTEL01654-3-4307

～汚粒軽減のため、収穫前のほ場整備をお願いします！～

1 収穫前の準備

(1) 雑草およびわい化病株の抜き取り

雑草が繁茂すると、収穫時の子実への混入や汁液の付着だけでなく、ほ場の乾燥や茎水分の低下を妨げることで、汚粒の発生を助長します。

コンバイン収穫時、オペレーターは汚粒とならないよう、子実水分や刈取高さ等、細心の注意を払って作業を行っていますが、雑草の混入は防ぐことはできません。

収穫前には、必ずほ場の確認を行い、雑草の抜き取りをお願いします。

また、「青立ち株」も汚粒の原因となりますので、雑草と併せて抜き取るようにしましょう。

(2) 出芽が遅れたほ場での対応について

「ユキホマレ」では、は種～成熟期までの積算温度は約 2200 度であることから、5月25日は種の場合、本年の成熟期は9月24日前後と見込まれます。

6月下旬に遅れて出芽した株では、7月末に開花期を迎えました。過去の作況査より、「ユキホマレ」で開花～成熟までに必要な積算温度は、1200度前後であることから、出芽の遅れた株は10月10日頃に成熟期を迎えると予想されます。

10月上旬のほ場内の成熟状況を確認の上、収穫時期をご判断下さい。

2 収穫作業の留意点

汚粒を抑えるためには、子実水分の低下(20%以下)に加え、茎の状態を確認することが必要です。

落葉後は日数がたつにつれ、茎に「ぬめり」(指でこすって「ぬるぬる」する)つきやすくなります。「ぬめり」が多いと、子実水分が下がっていても、汚粒が多くなるおそれがあります。「ぬめり」が見られる場合は、晴天日の日中(午前10時午後2時頃まで)に収穫し、刈り取り高さも高くして下さい(高さ12cm程度まで)。

また、生育期間中に黄化や生育不良等、ダイズシストセンチュウの発生が疑われた場合は、収穫を後回しにするか、収穫後にコンバインを洗浄して土砂や残渣を除去するようにして下さい。

なお、ダイズシストセンチュウは、マメ科以外の作物には寄生できませんので、次年度は、マメ科以外の作物を作付けして、密度を下げるようにしましょう。

コンバイン作業時には、周囲の安全を確認するとともに、点検時は必ずエンジンを切ってから、作業を行いましょう。